

24:1 なぜ、全能者によって時が隠されていないのに、神を知る者たちがその日を見ないのか。24:2 ある者は地境を動かし、群れを奪い取ってこれを飼ひ、24:3 みなしごのろばを連れ去り、やもめの牛を質に取り、24:4 貧しい者を道から押しのける。その地の哀れな人々は、共に身を隠す。24:5 見よ。荒野の野ろばを。彼らは、出て行き、荒れた地で獲物を求めて捜し回り、自分の子らのためにえさを求める。24:6 飼葉を畑で刈り取り、悪者のぶどう畑をかすめる。24:7 彼らは着る物もなく、裸で夜を明かし、寒さの中でも身をおおう物が無い。24:8 山のあらしでずぶぬれになり、避け所もなく、岩を抱く。24:9 彼らはみなしごを乳房からもぎ取り、貧しい者の持ち物を質に取る。24:10 彼らは着る物もなく、裸で歩き、飢えながら麦束をになう。24:11 その植え込みの間に油をしばり、酒ぶねを踏みながら、なお渴く。24:12 人の住む町からうめき声が起こり、傷ついた者のたましいは助けを求めて叫ぶ。しかし、神はその愚痴に心を留められない。24:13 これらの者は光に反逆する者で、光の道を認めず、また、その通り道にとまらぬ。24:14 人殺しは、夜明けに起き上がり、哀れな者や貧しい者を殺し、夜には盗人のようになる。24:15 姦通する者の目は夕暮れを待ちもうけ、「私に気づく目は無い。」と言い、その顔におおう物を当てる。24:16 彼は暗くなってから、家々に侵入する。昼間は閉じこもって光を知らない。4:17 すべて彼にとっては暗黒が朝である。彼は暗黒の恐怖と親しいからだ。24:18 彼は水の面をすばやく過ぎ去り、彼の割り当ての

地は国の中でのろわれる。彼はぶどう畑の道のほうに向かわない。24:19 ひでりと暑さは雪の水を奪ひ、よみは罪を犯した者を奪う。24:20 母の胎は彼を忘れ、うじは彼を好んで食べ、彼はもう思い出されない。不正な者は木のように折られてしまう。24:21 彼は子を産まない不妊の女を食いものにし、やもめによくしてやらない。24:22 しかし、神は力をもって暴虐な者たちを生きのびるようにされる。彼はいのちがあるとは信じられないときに立ち上がる。24:23 神が彼に安全を与える。それで、彼は休むことができる。神の目は彼らの道の心に注がれる。24:24 彼らはしばらくの間、高められるが、消えうせる。彼らは低くされ、ほかのすべての者と同じように刈り集められる。麦の穂先のように枯れてしまう。24:25 今そうでないからといって、だれが私をまやかしか者だと言えよう。だれが私のことばをたわごとにしようとするのか。

ヨブは神の時すなわち裁きの時が明らかであるのなら、どうして日常にその裁きがないのかと問います。地境を動かすような不正や横暴があり、またそれによって（野ろばように）貧しい者たちは荒野でしか食べ物を得られず、悪者が刈り取った後の畑で飢えをしのぐようになります。さらに悪者たちはみなしごを母から奪ひ、奴隷として酷使します。

そしてその彼らの訴えを神は心に留められず、悪者を裁かないというわけです。エリファズの主張は、病は悪者に対する神の裁きだから、ヨブも悪いに違いないということでした。ヨブはそれは現実世界を見るなら当てはまらないと言いたいのです。

神は心の内にあるものを明らかにされるお方で

す。黙示録には「22:11 不正を行なう者はますます不正を行ない、…聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」22:12 「…わたしは…わたしの報いを携えて来る。」とあります。結果的に、悔い改める者には忍耐が、頑なな者には裁きの確かさが表されるのです。

批判する側もされる側も、全能の神が定めた時の前にへりくだり、委ねて、その正しい裁きを後に見せていただきますよ。

ヨブはさらに悪者の様子を語りますが、また神の裁きもあること（18～20、24）を期待します。ヨブの信仰は、必ずある神の裁きと、また裁きには時があるということに行き着いたようです。これが後の悟りにつながっていくと思われます。

苦しみながら全存在をかけて神に問いかけ、教えられた御心の真理ほど貴重なものではありません。ヨハネの福音書でイエス様は「14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と言われました。苦しいときこそイエス様と熱心に交わり、宝を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

